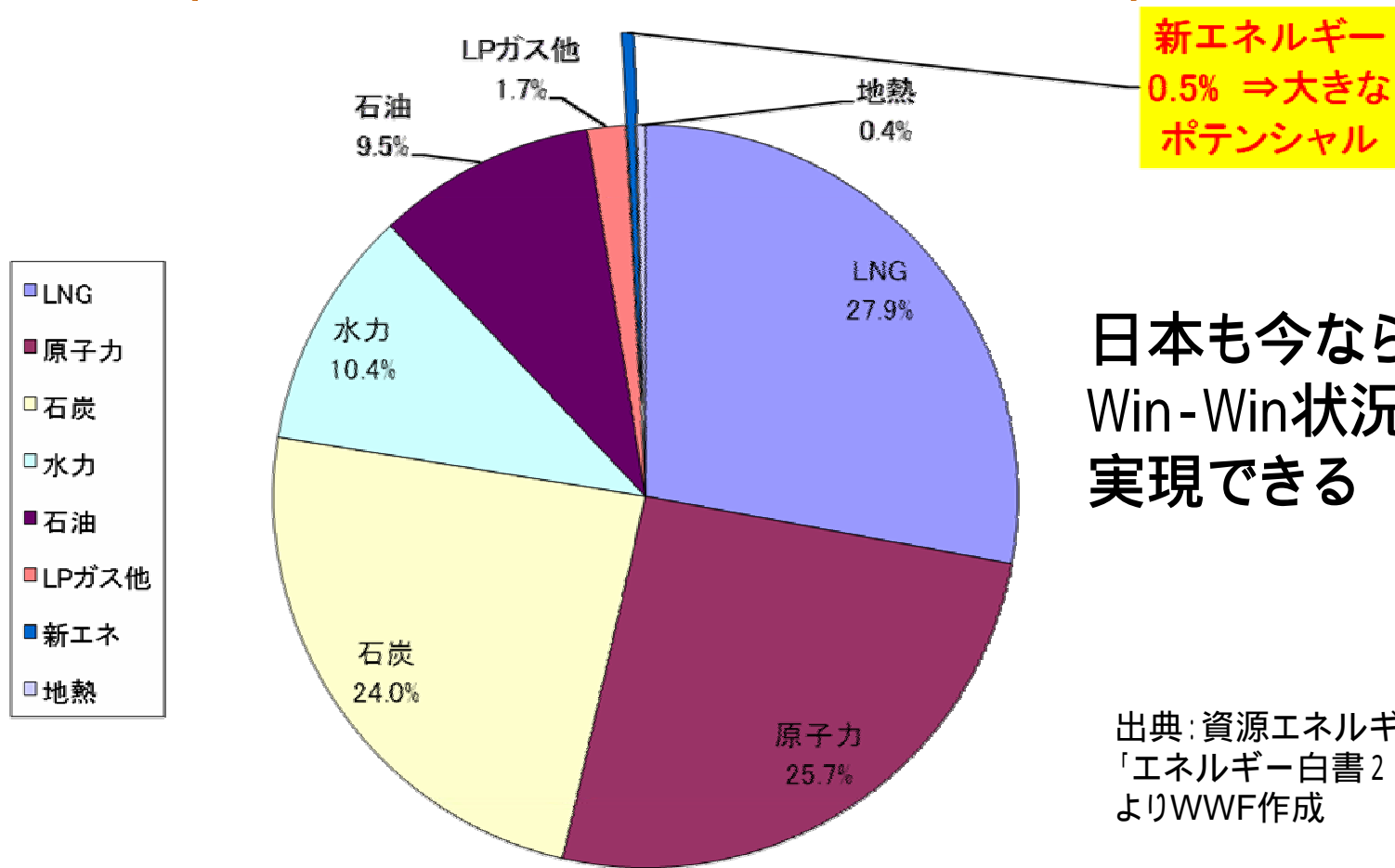




日本の発電電源構成 (一般電気事業者用 / 2003年度)



WWFジャパン気候変動プログラムは
「日本において2010年までに自然エネルギー10%導入」を
達成するべき目標と置く。風力発電はその鍵を握る。



先行する海外のバードストライク事情

「風力発電と鳥」風力エネルギー (2003) より

- 「風車への鳥の衝突問題」 National Wind Coordinating Committee (NWCC*) Resource Document (2001.8.) *1994年設立のアメリカの団体。コンセンサスベースで持続的風力商業市場開発。
 - 約15000機の風車に33000羽/年の鳥が衝突死 (平均2.19羽/年/機)
 - 衝突死全体2億 ~ 5億羽の0.01~0.02%
 - 通信用タワー 1~2% 高さ150m以下の報告は少ない。
 - 送電線はモニタリングが困難で、1万~1億7400万羽と開き
 - 立地を決める際に、**鳥類も含めた野生生物の生息環境への配慮**が最も重要。
- 「ウインド・ファームと鳥」 Birdlife International (2002.9.)の勧告 (EUベルン条約会議向け)
 - 洋上風力開発に向け、海の保護地域を見極め、指定することが緊急に求められる。
 - 政府と風力業者による研究、モニタリングが行われ、国際的科学誌に発表される。
 - 各国政府による風力発電計画に対する戦略的環境影響評価 (SEA)の実施。
 - 鳥の棲息図、飛行路、渡りルート、配慮を要する種についての情報提示

日本では、これらの事例紹介からさらに4年以上をロスしている。





再生可能エネルギーのメリット

- **エネルギー安全保障**：自然エネルギーは国産で、燃料は無限。
- **リードタイムが短く、すぐに稼働できる**：従来の化石燃料発電所や原発に比べ、あらかじめ慎重かつ十分なアセスメントさえ行われれば、即、建設・操業に移せる。
- **分散型エネルギー**：地域の電力供給が行える 高圧送電網が不要
その建設費、送電費、送電ロスもなくなる。バードストライクも減る可能性。
災害時にも被害が少ない。
- **脱温暖化社会は、分散型エネルギーで実現できる。**
経済発展と自然保護が共存可能

